

とわってい 塔王

日タイ修好135周年記念事業

パクワン幼小中校の施設改修工事実施!

日タイ修好135周年記念事業として、昨年10月に開催した臨時役員会にてパクワン幼小中校の施設改修工事について決議され、2022年度事業として実施する運びとなりました。支援内容はタイ北部チェンライ県にあるパクワン幼小中校の調理場やトイレ等、老朽化が顕著に見られる校内の6施設を改修するというものです。年末年始にかけて工事を進め、2月22日に竣工式が執り行われましたので、ご報告いたします。

パクワン幼小中校はチェンライ市内から約36km離れたコク川沿いの山中にあり、約300名いる生徒の半数近くが敷地内の寮に住んでいます。創立は1981年で、教室、食堂、寄宿舎、洗濯乾燥場、調理場といった施設が約9000坪の敷地に点在しています。支援先の検討にあたり、チェンライ県教育局からの提案を受け、実際にパクワン幼小中校の現地視察に行ったところ、調理場やトイレの老朽化がひどく、不衛生な状況でありました。当協会としては当初SDGsの観点から支援先を選定していたため、校内施設の改修をすることで子どもたちの安全を守り、より快適に教育を受けられる環境を提供できるという思いから、パクワン幼小中校への支援を決定しました。

パクワン幼小中校の施設改修工事について、臨時役員会での決議後、10月27日にチェンライ県教育局長にもご出席いただき、当協会とオンラインでの調印式を行いました。

調印式にあたって、パクワン幼小中校はインターネット環境が不十分なため、チェンライ県教育局に会場提供のご協力をいただきました。冒頭に原会長より「子どもたちの健康維持・促進と安心安全な学校生活のために役立てていただきたい。」との挨拶があり、その後覚書への調印、当協会からの記念品の授与を行いました。



▲竣工式での集合写真



▲オンライン調印式の様子



▲パクワン幼小中校のパーリー校長挨拶



▲竣工式には生徒代表約100名が参加

工事は学校行事との兼ね合いもあり12月末頃から開始し、2月末に完了しました。竣工式には多くの子どもたちも出席してくれました。改修して快適になった施設で、子どもたちにもますます勉学に励んでもらえることを願っております。※工事費は300,000バーツ(約16万円)で、会員の皆さまからの会費により実施することができました。

日タイ修好135周年記念事業

パクワン幼小中校 改修前後のようす

今回改修工事支援の対象は「調理場」「屋外トイレ」

「屋内トイレ」「男子屋外シャワー室」「女子屋外シャワー室」「洗濯乾燥場」の6施設としました。いくつかの施設の改修前後の様子などをお知らせします。

調理場

当初は簡単な調理台しかなく、炭や薪を使った直火での調理は危険がありました。新たに薪用コンロを保温性の高いレンガで製作して、調理時間の短縮と、コンロからの延焼防止ができるようになりました。また、床にはタイル張りを施しました。毎日120余名もの寄宿生の食事が調理される場所なので、子どもたちに安全に美味しい食事食べてもらいたいと思います。



before



after

屋外トイレ

写真ではわかりにくいですが、個室内の便器が壊れているなど、全体的に不衛生な状態でした。便器の入れ替えと扉の修理、床のタイル張りを施すことで、快適に使いやすいトイレに生まれ変わりました。



before



after

男子・女子シャワー室

老朽化による壁面タイルの剥がれや床面の剥がれがありました。タイルの補修と、フェンスの設置を行いました。



before



after

洗濯乾燥場

寄宿生の衣服は毎日洗濯をし、屋外に干して乾燥をさせています。毎日かなりの量になるので、特に雨季には水はけの悪さと、屋根が一部破損している状況から、乾きが遅くて困っていました。床をタイル張りにし、干し場を拡張、屋根の補修も行ったことで、これから訪れる長い雨季でも洗濯がしやすくなったと、喜んでいただきました。



before



after

改修した施設はすでに子どもたちが利用していることで、ぜひ今後も大いに活用してもらえると嬉しく思います。会員の皆さまのお力添えのおかげで、今回無事に日タイ修好135周年記念支援事業を実施することができました。また、現地での調査や学校関係者とのやり取りにあたり多大なるご協力をいただきました。会員の堀田様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

タイ王国大使館と当協会役員の情報交換会を実施



▲在東京タイ王国大使館の皆さまと当協会役員・事務局の集合写真
(前列中央がシントン・ラーピセートパン駐日タイ王国特命全権大使)

使館の皆さまとの情報交換会を開催いたしました。

当日は、原会長からの歓迎挨拶に続いて参加者から自己紹介をしたのち、シントン・ラーピセートパン大使閣下より「タイのBCG経済モデルのビジネスチャンス」という演題で貴重な講話をいただきました。その後は昼食懇談会のお時間とさせていただきます。大使閣下からお話いただいたタイにおけるビジネスについての話など、皆さま積極的に意見交換をされていました。

当日ご講話いただいた内容については、以下に要旨として紹介をさせていただきますので、ぜひご覧ください。

新型コロナウイルス感染症の影響により、当協会においても2020年以降は役員会や総会を実開催することができず、タイ王国大使館の皆さまにお目にかかる機会がありません。3年が経過してしまいました。そこで、当協会原会長の発案により、今年の2月10日にパレスホテル大宮にて、協会役員と、駐日タイ王国特命全権大使のシントン・ラーピセートパン閣下はじめ大



▲タイ王国大使館と当協会の記念品交換

シントン・ラーピセートパン駐日タイ王国特命全権大使のご講話 「タイのBCG経済モデルのビジネスチャンス」(要旨)



▲シントン・ラーピセートパン
駐日タイ王国特命全権大使

本日はこのような場にお招きいただき、ありがとうございます。

せっかくですのでお時間をいただき、これからのタイのビジネスモデルについてご紹介させていただきます。

2019年、タイは日本の「グリーン成長戦略」に相当する独自の「BCG経済モデル」を発表しました。

持続可能な開発を目指すために、バイオ(Bio)、循環型(Circular)、グリーン(Green)の3つを統合したものがBCG経済モデルです。バイオ経済(Bio Economy)とは再生可能な生物資源を生産し、その資源を付加価値のある製品に変換することです。循環型経済(Circular Economy)とは資源の再利用とリサイクルを目的としています。グリーン経済(Green Economy)とは経済、社会、環境のバランスを保ち、持続可能な発展を目指すために不可欠な経済のあり方です。そして、これは日本企業にとってのビジネスチャンスとしてご紹介させていただきます。

まず、タイはエネルギー、材料、バイオ化学製品セクターにおける東南アジアの主要な投資先です。

いくつかの例を挙げると
ー世界的なキャッサバの輸出国 1位

- ーアセアントップのバイオディーゼル生産国 1位 世界では5位
- ー世界的なバイオプラスチックの輸出国 3位
- ー世界有数の砂糖生産国 4位
- ー世界有数の精米の総収穫量 6位
- ー世界有数の生物多様性を誇る 18位

となっており、生物多様性、人的資本、そして革新的なインフラが整っていて、先進的な製造業の受け入れに優位です。タイでは、民間の研究開発への投資を推進する「サイエンスパーク」が全国に整備されている他、タイ政府が奨励する東部経済回廊(EEC=Eastern Economic Corridor)の中心には、バイオやナノテクノロジー、グリーン農業や蓄電池開発といった先端分野の研究が可能でイノベーションハブ「ECI」が設置されており、最先端技術への投資を後押ししています。

そして、タイは持続可能な開発のために、BCGモデルを採用しました。BCGはタイの主要な経済基盤として、今後6年間で4兆バーツ(GDPの24%)の価値を生み出すとしています。

また、国としては2030年までにGHG(温室効果ガス)を2025%削減、2050年までにカーボンニュートラルを実現し、2065年までに炭素排出量をゼロにする目標を掲げており、タイのBCGの取り組みに合致しています。これは、日本のグリーン成長戦略、SDGの持続可能な開発目標といたった内容に沿った取り組みです。タイ、そして日本も、2050年までにカーボンニュートラルを達成するとい

う同じ目標を共有しています。

昨年2022年、アジア太平洋経済協力会議(APEC)の議長国を務めたタイは、BCG経済モデルに基づき、持続可能でバランスのとれた包括かつ長期的な成長を目指すことの重要性を主張しました。世界レベルで進む持続可能な社会の実現への取り組みの中で、タイのBCG経済モデルは優位性が高く、総投資申請額も増加傾向にあります。

タイにとっての大きな利点といえるのが、タイの多様な生物資源と肥沃で豊富な農業資源・素材です。

また、現在稼働している工業団地は全国に70カ所以上、製造業向けの各種インフラも整備されています。そして、ご存じのように地理的利点を生かし、アセアン諸国やそれ以外の国々と結ぶ物流網を発展させてきています。

さらに、タイ政府は、企業に様々な支援策を展開しています。代表的なものとして、多国籍企業からスタートアップまで幅広い投資企業を誘致する各種税制優遇や、重点産業分野の国際人材や投資家に最長4年間タイでの就労と滞在を認めるスマートビザなどがあります。また、タイ経済・投資事務所(BOI)は産業連携の確立や地元サプライヤーからの調達、ビジネスマッチング支援を通じて企業をサポートしています。こうした豊富な支援オポションは、タイへの投資を促しBCG経済モデル実現を促す強力な原動力となっています。関心のある方は、BOIの東京事務所をご紹介させていただきます。

所をご紹介させていただきます。

第25回総会開催

下記の要領で総会を開催します。

駐日タイ王国特命全権大使のご講演を予定していますので、ぜひご出席ください。

また、今後の新型コロナウイルス感染症の発生状況によっては中止となる可能性もありますので、ご承知おきいただきますようお願い申し上げます。

日時: 2023年

7月10日(月)

16:00~18:30

総会・講演会・懇親会

場所: 川越プリンスホテル

川越市新富町1-22

☎049-227-1111



▲第21回総会の様子
(第22回~第24回総会は書面にて開催)

「5月はタイMonth」キャンペーン!

タイ王国大使館は代々木公園で開催されるタイフェスティバルの盛り上がりを全国各地に広げるため、国内の官民団体と協力して「5月はタイMonth」キャンペーンを行います。

5月から6月にかけては各地の会場やオンラインを利用して、タイ関連イベントが多数開催されます。また5月15日から6月15日に行われる大使館の企画「Fine Thai In Your Area 食ベタイ! 買いタイ! 体験しタイ!」では期間中に特別割引やプレゼント抽選会もあります。

「5月はタイMonth」キャンペーンの詳細は、タイ大使館の特設ウェブサイト(<https://thaifestival.jp>) Facebook、Instagram、Twitterでご確認ください。



▲在東京タイ王国大使館ホームページより

今年
はタイ
フェス
ティバ
ルをは
じめ、
多くの
イベン
トが開
催され
る予定
、これ
も3年
ぶりの
実感
です。

3年
ぶりに
タイ王
国大使
館の皆
さまに
お目に
かかる
ことが
できま
した。少
しずつ
コロナ
前に戻
っている
ことを
実感しま
した。

編
集
後
記

(T)

(O)

プミポン前国王陛下ご誕生日 ナショナルデー、父の日レセプション開催

2022年12月5日(於帝国ホテル)、タイ王国大使館主催のプミポン前国王ご誕生日、ナショナルデー及び父の日レセプションが開催されました。レセプションには在日の各国外交官をはじめ、日本の政府関係者や関連企業の出席者、並びにタイ人あわせて約700名近くが一堂に会し、当協会からも高橋事務局長が参加いたしました。シントン・ラーピセートパン大使閣下からの歓迎挨拶では12月5日がプミポン前国王ご誕生日、ナショナルデー、父の日及び世界土壌の日であり、タイ国民にとって重要な日であることが述べられました。



▲シントン・ラーピセートパン大使閣下と来賓代表の武井俊輔外務副大臣(写真は在東京タイ王国大使館ホームページより)

第23回タイフェスティバル東京2023

入場無料

開催日時 5月20日(土)・21日(日)
10:00~20:00

会場 東京 代々木公園イベント広場

新型コロナウイルス感染症の影響を受けてここ数年中止となっていた、代々木公園でのタイフェスティバルが、今年5月に再び開催されることが決定しました。

今まで在東京タイ王国大使館が単独で主催をしていましたが、今回は「ジャパンエキスポタイランド」などを運営するジューククリエイティブとの、官民による初共催となります。



▲在東京タイ王国大使館ホームページより

埼玉・タイ王国友好協会ウェブサイト

<http://www.saitama-thai-fa.ecnet.jp/>

・会員増強にお役立て下さい

会 員 募 集

年会費 法人会員 2万円 問い合わせ TEL:049-247-5428
個人会員 2千円 FAX:049-246-2118

(武州ガス株内)